



新年のごあいさつ

理事長 松 田 等

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は当組合の事業運営に対してご指導とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、スポーツ界では、南アメリカで初のリオ・オリンピックが開催され、京都府とゆかりのある選手の活躍に感動し、国内では、広島カープが25年振りにリーグ優勝を果たすなど活気にあふれた年となりました。

しかしながら、昨年も4月に熊本・大分県で相次いで震度6強、10月には鳥取地震で震度6弱等の災害に見舞われ、被災された皆様に改めてお見舞い申し上げます。

また、政治・経済に関しては、東京では小池百合子氏が女性初となる都知事に就任し、2020年東京オリンピックの競技会場問題と築地市場の豊洲市場移転問題が浮き彫りになり、米国ではトランプ氏が次期米国大統領に当選した結果、株価、債券、為替レートに大きな変化が生じました。日銀によるマイナス金利政策が昨年1月末に発表され、9月にはさらなる金融緩和が強化されましたが、デフレ経済からの脱却にはまだ時間を要すると思われます。

さて、当組合の財政は、国庫補助金の激減と医療費の増加により、単年度収支で赤字が続いておりましたが、赤字体質の改善を図るために、昨年4月より介護保険料を改定し、今年4月から医療分等の保険料を改定させていただくことになりました。当組合の健全な財政運営が継続できるように委員会・理事会等において鋭意検討してまいりますので、今後ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。保険料の改定も然ることながら、被保険者の皆様には当組合の保健事業を積極的にご利用いただき、健康維持に努めていただきますようお願い申し上げます。

昨年1月より個人番号（マイナンバー）の利用が開始され、いよいよ今年7月より地方公共団体と医療保険者の情報連携が開始することになります。情報連携は、個人番号を直接用いず、各機関に振り出される符号を利用することにより、芋づる式に情報が漏えいすることを防止する仕組みになっています。当組合も個人番号等個人情報の管理については、セキュリティ対策に万全を期してまいりますので、引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、組合員とご家族の皆様におかれましては、今年が穏やかな1年であるとともに、ご繁栄を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

〃	〃	監	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	理	専務	〃	副	理	謹	
		事									事	理事		理	事	賀	
高	益	池	信	津	田	山	大	井	市	小	長	細	磯	小	上	松	賀 新 年
田	田	内	吉	田	伏	中	西	上	川	我	谷	川	垣	林	野	田	
昌		善	秀	彰	裕	祥	良	義	桂	光	一	哲		正	浩		
英	進	一	起	真	一	悟	仁	平	三	博	雄	夫	昇	典	也	等	



共生社会の実現に向けて

京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、あけましておめでとうございます。

昨年を振り返って

昨年は、地方創生の動きが本格化する中、オール京都の取り組みで文化庁の京都への全面的移転が決定するとともに、京都丹波高原国定公園の誕生と「京都モデルフォレスト運動」の10周年を祝い、森の京都博の中核イベントとして第40回全国育樹祭を実施するなど、京都の地域力を生かした取り組みを積極的に展開することができました。また、京都を縦貫する自動車道が京丹後市まで開通し、観光客も過去最高の賑わいを記録する中、舞鶴港にも多くのクルーズ船が来港するなど、観光の面でも充実した一年になりました。改めて関係の皆さまにお礼を申し上げます。

しかし一方では、熊本地震や鳥取県中部地震など災害が相次ぐとともに、平成27年の国勢調査の結果からも、少子高齢化や東京一極集中の進行が改めて確認されました。また、北陸新幹線のルート選定過程でもクローズアップされた地域間格差の問題や、増加する非正規雇用の問題、子どもの貧困問題など、社会構造の変化から生じる問題も深刻化しつつあります。

さらに、国際情勢を見ても、保護主義的な思想の台頭が顕著になるなど、様々な観点から二極化が進んでおり、その中で争いの種が芽を出し始めていることに危惧を覚えています。また、昨年、神奈川県相模原市の障害者施設で起きた痛ましい事件は衝撃的でしたが、他者に対する尊重の念を忘れた事件も増加してきているような気がするのは私だけでしょうか。

共生こそ京都の文化

今年京都は、地域創生戦略に基づき、「文化創生」により京都の価値を発信していこうとしています。私は、この京都の「文化」の中にこそ、こうした時代に立ち向かう大きな答えがあると信じています。

京都は長い歴史に彩られた地域です。丹後王国として栄えた北部、平城京から恭仁京や長岡京など、遷都を繰り返しながら平安京に至った南部、豊かな森の恵みで都を支えた中部。それぞれの地域が個性を生かし、互いを支え合って京都をつくっています。近年、環境問題や少子高齢化など持続可能性が問題になりますが、まさに京都の文化は持続可能な文化と言えます。

もともと平安京という都自体、唐の都長安を模したものでありますが、外国から輸入した文化を日本独特の文化へと育むことにより、千年の都として「歴史との共生」を果たしてまいりました。さらに、千年もの間、都であり続けたという持続可能性を支えたのが、京都議定書の精神に代表される「環境との共生」です。

また、仏教各宗派の本山が多く存在するとともに、日本で最初のキリスト教主義の大学が京都で開学されるなど、多様な思想が共生する京都には、伝統産業から先端産業まで幅広い産業が共生し、さらには、47の大学が個性を持ちながら共生しています。

そして、門掃きや打ち水などに見られるように、人々が隣人に対する思いやりを持って接する京都の文化は、まさに、「共生の文化」というべきものだと思います。

海と人、森と人、お茶と人と、京都府は新しい共生の道を探ってきました。また、学研都市では、文化と学術の共生が花開こうとしています。この共生という文化こそ、京都が今世界に問わなければならない文化ではないでしょうか。

若者も高齢者も、女性も男性も、障害者も健常者も、ともに支え合って、お互いの個性を尊重することができてこそ、はじめて持続可能な社会が成立し、将来に向けて共に発展する可能性が生まれるのではないのでしょうか。

右か左か、黒か白かといった二者択一の対立と争いの中で、排斥と淘汰が繰り返される世の中だけは後世に残したくありません。様々なものが共生する中で、未来に向けて発展することのできる社会こそが、京都に生きる私たちが次の世代に託すべきものではないのでしょうか。

「もうひとつの京都」

「もうひとつの京都」では、「海」「森」に続き、いよいよ「お茶の京都」の年を迎えます。舞台となる山城地域は、「日本茶のふるさと」として、古くからお茶の文化を支え、育んできた地域です。家族団らんの象徴であり、一期一会の文化の源であるお茶、そしてそれを支える山城の景観。ここにも「共生の文化」が息づいています。「Discover Premium Green」のコンセプトのもと、「お茶の京都博」で世界に京都文化を発信する年にしたいと思います。

そして、「もうひとつの京都」セカンドステージを牽引する各地域のDMOのもと、地域やその地に暮らす人々の結びつきを生かし、共に支え合って生きていく「共生の観光」を育んでいきたいと思っています。

共生社会の実現へ

こうして本年、京都府は、子育てや医療、産業、労働、環境、観光などあらゆる分野で、「共生」をキーワードとして、府民の皆さまの生活に寄り添った施策を進めてまいりたいと考えております。「交流」と「文化」から生み出される「京都力」を存分に発揮し、京都から世界へ、100年後、200年後の未来へとつながっていく新たな「共生社会」の実現に向け、共に歩んでまいりましょう。

この一年の、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。



文化の力で日本を元気に！ 世界に貢献！

京都市長 門川 大作

新年あけましておめでとうございます。

この一年が京都府建設業職別連合国民健康保険組合の皆様にとって幸多い年となりますようお祈り申し上げます。

昨年は、京都が文化で彩られた一年でした。「文化の殿堂」ロームシアター京都のリニューアルオープンに始まり、鉄道博物館や漢字ミュージアムは新たな賑わい拠点に。京響60周年やマンガミュージアム10周年、伊藤若冲生誕300年と多くの節目が重なり、盛り上がりました。

そんな中、長年の悲願であった文化庁の全面的な移転が決定！市民ぐるみ、オール京都の取組が実を結び、嬉しく思う一方で、京都が負った責任の重さもひしひしと感じています。

生活文化、地域の絆や自然との共生、ものづくり、おもてなしの心などが千年を超えて受け継がれてきた京都。京都に息づく文化を活かすと同時に、文化と伝統産業、観光、教育、福祉、健康長寿、コミュニティの活性化などあらゆる分野を融合させる新たなモデルを創造し、文化の力で全国を元気に。新年のスタートに当たり、決意を新たにしています。

そして本年、文化庁の地域文化創生本部（仮称）が発足。さらに2月から11月まで実施する「東アジア文化都市」では、日中韓、アセアンとの文化交流を深め、世界平和に貢献。大政奉還150周年事業や2020年東京オリ・パラに向けての文化力プロジェクト。京都議定書誕生20周年で環境問題にも力を入れます。

東京一極集中の是正や人口減少社会の克服が大きな課題です。より一層の子育て支援や中小企業の活性化、安定した雇用の創出、防災減災等、安心社会の実現。暮らしに安心、豊かさ実感、未来に責任！そのための取組を確実に実施し、これらの課題に皆様と共に取り組んでまいります。

「京都で子育てしてよかった」「京都に住み続けたい」と実感できるまちの実現に向け、共に力を合わせてまいりましょう！

本年も御指導、御支援、よろしく願いいたします。

上半期医療費の集計がまとまりました

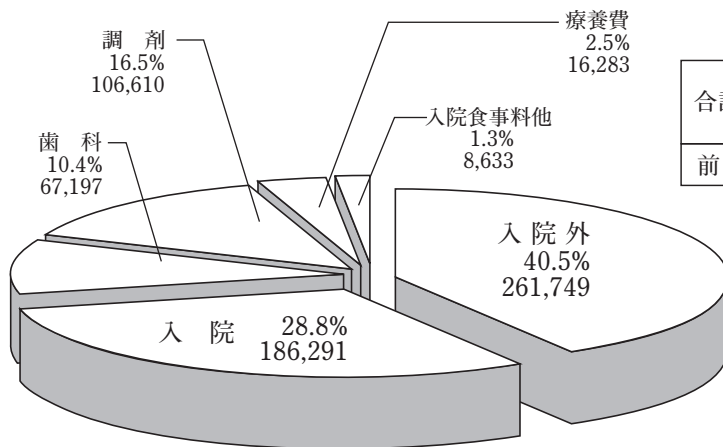
平成28年度上半期の医療費は、前年より7,447千円の増(+1.2%)になり、被保険者一人当たりも増加しています。

特定健康診査(40歳～74歳の被保険者対象)や人間ドック(35歳以上の被保険者対象)の助成をしておりますので、積極的に受診し、生活習慣を見直すよう心がけてください。

今後とも医療費の節減にご協力をお願いします。

平成28年度上半期医療費の構成割合

単位：千円



合計	27年度	639,316千円
	28年度	646,763千円
前年度比較		1.2%増

1人当上半期医療費の動向

単位:円
()は前年度比

